



【これからの学校教育（ウェルビーイングと地域）】

副校長 杉本 敬之

小満の候となりました。日頃より本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となり、学校生活も少しずつ変化してきました。これからも感染症に留意しながら教育活動を進めていきます。

さて今回は、『これからの学校教育』についてお伝えします。今年の3月に文部科学省の組織の中央教育審議会から次期教育振興基本計画についての答申※1が出されました。これが大元となり、今後の学校教育の方向性が定まってきます。

私がおもひなかで特に注目した言葉は「ウェルビーイング」と「地域」です。「ウェルビーイング」とは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることを表します。学校教育に関わる、子ども・家庭・地域・教師それぞれが「ウェルビーイング」になることをねらっています。

次に「地域」です。私が調べたところによると「地域」という文言が、答申の中に263回登場しています。以前の教育振興基本計画と比べて、地域の役割がより重要になってきていることが読み取れます。

※1

https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_soseisk02-000028073_1.pdf

答申の中で次のような文言がありますので紹介します。(抜粋)

○子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる。

○子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要である。子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる。

子どもたちの学びを学校・保護者・地域がともにつくる・教師のウェルビーイングを高めることが子どもたちのウェルビーイングにつながるのだと思います。

実際に本校でも様々な保護者・地域との協働活動が行われています。「まるっとつなひが」の方による1年生の入学期サポート・家庭科の調理実習サポート・校外学習サポート、保護者ボランティアによる学習サポート、PTA や保護者ボランティアの方による交通安全教室のサポート、さらに地域の方による交通安全のサポートです。皆様の協力があり、子どもたちの教育活動の質がより高まっていることを実感しています。本当にありがとうございます。また、教師のウェルビーイングを高めるために留守番電話設定やリーバーの活用などで働き方改革を進めています。子どもたちのウェルビーイングを高めるために、引き続き本校の教育活動へのご支援・ご協力をお願いいたします。

